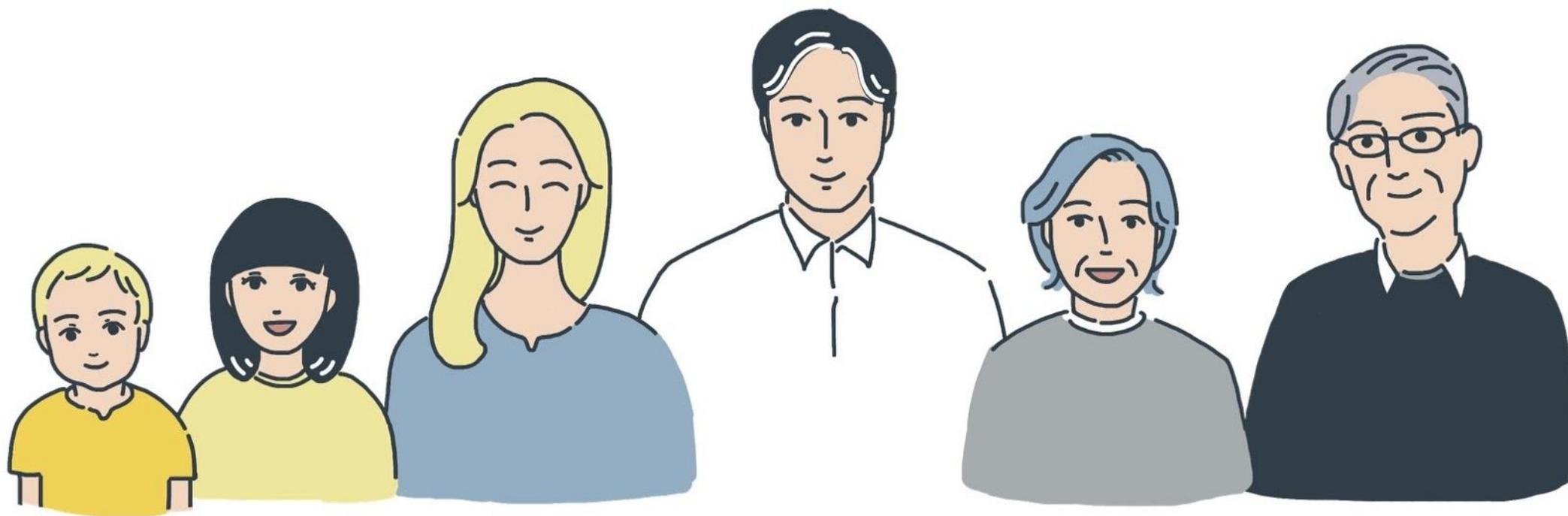


石岡未来会議オンライン



第1回 石岡市のいまを知ろう

日にち 11月3日 (火・祝)

石岡市に住んでいる人の「数」

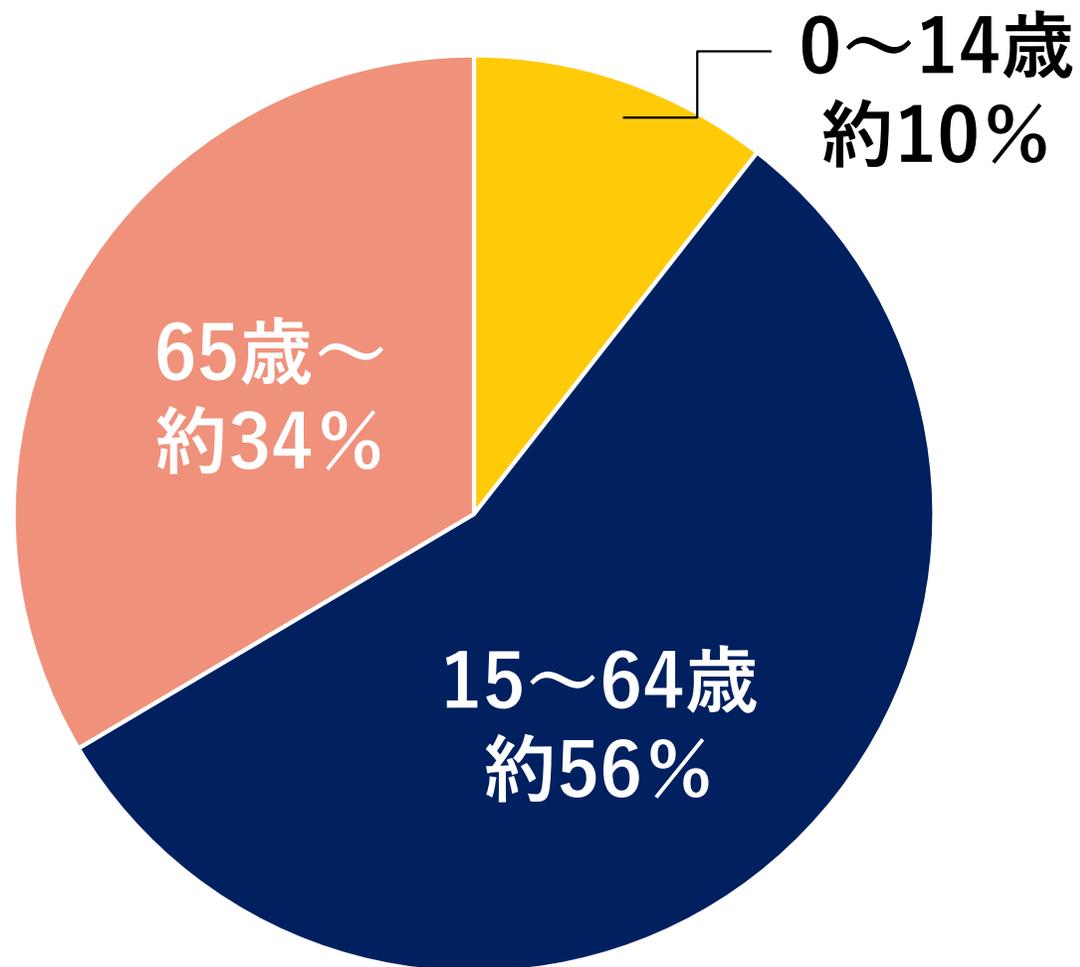
7万2,351人

(令和2年10月1日時点・常住人口)

常住人口とは

直近の国勢調査結果の年齢別人口を基礎とし、これに市町村から報告される住民基本台帳の増減数を加えて推計したものです。

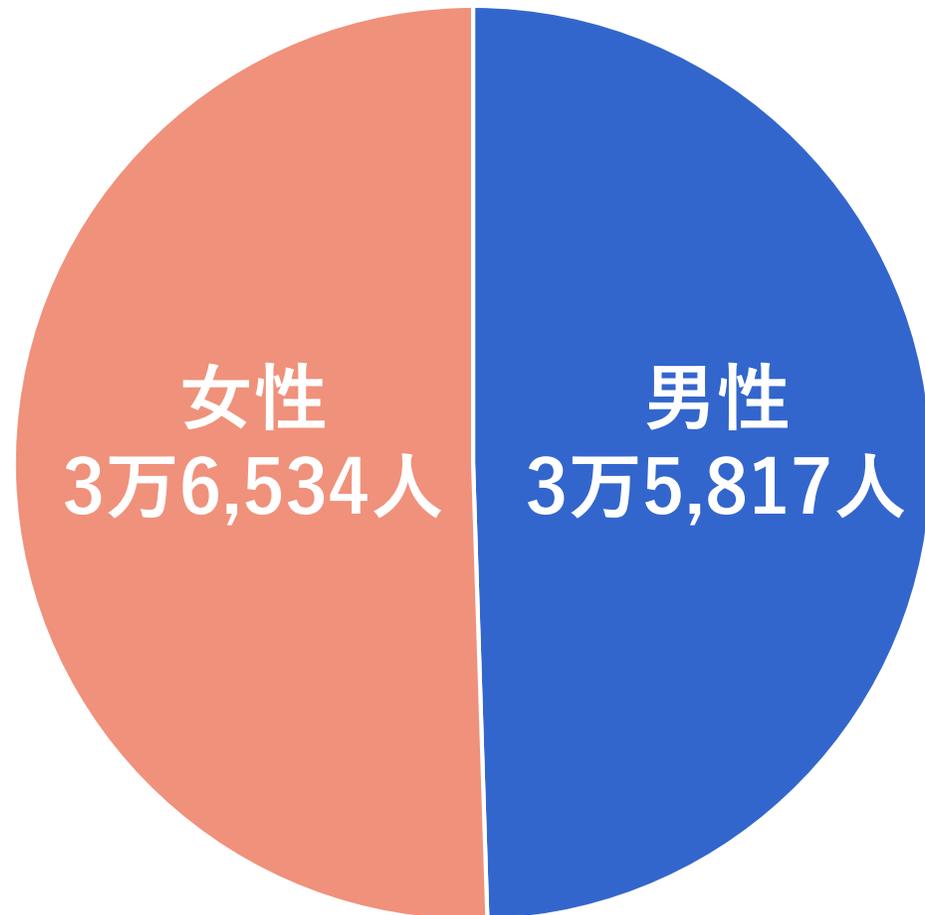
石岡市に住んでいる人の「年代比」



	0歳～14歳	15歳～64歳	65歳～
合計	7,575人	40,162人	24,089人

(令和2年10月1日時点・常住人口)

石岡市に住んでいる人の「男女比」



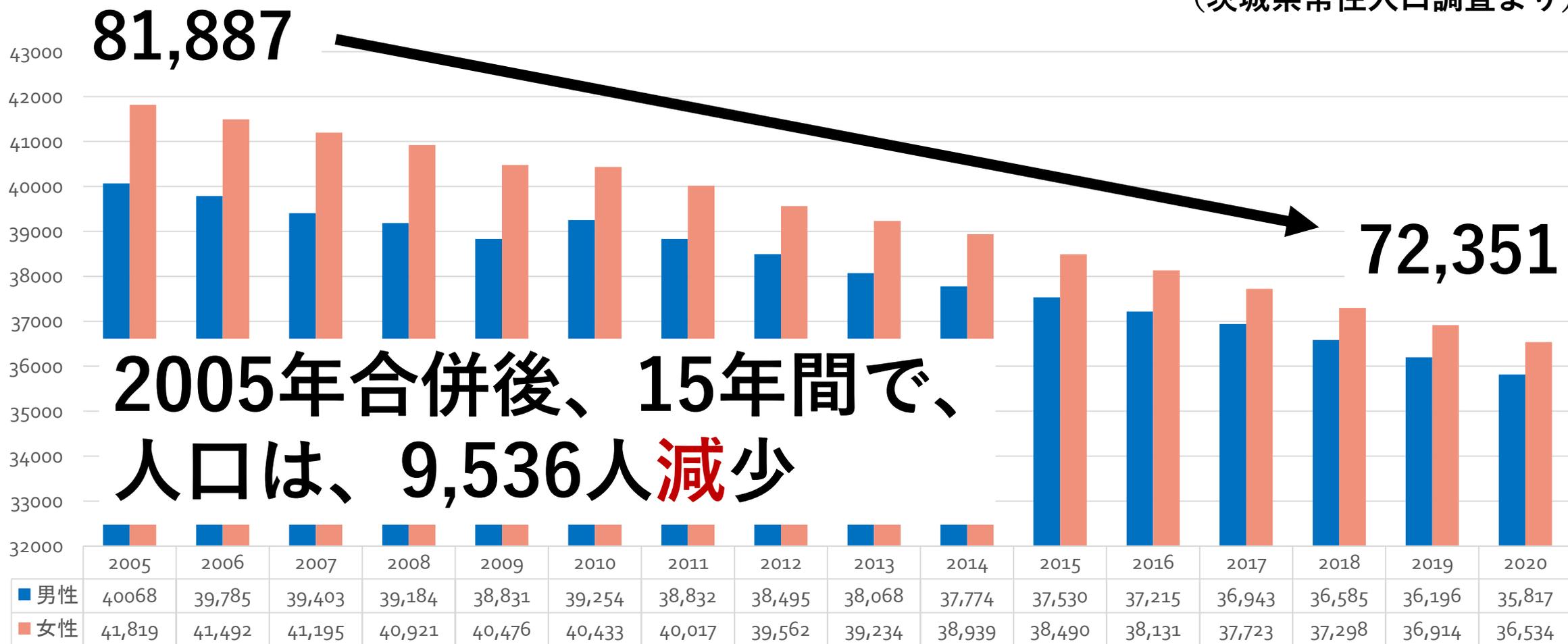
	0歳～14歳	15歳～64歳	65歳～
合計	7,575人	40,162人	24,089人
男性	3,942人	20,758人	10,811人
女性	3,633人	19,404人	13,278人

	石岡市民の平均年齢	茨城県民の平均年齢
	49.9歳	47.7歳
男性	48.2歳	46.2歳
女性	51.6歳	49.2歳

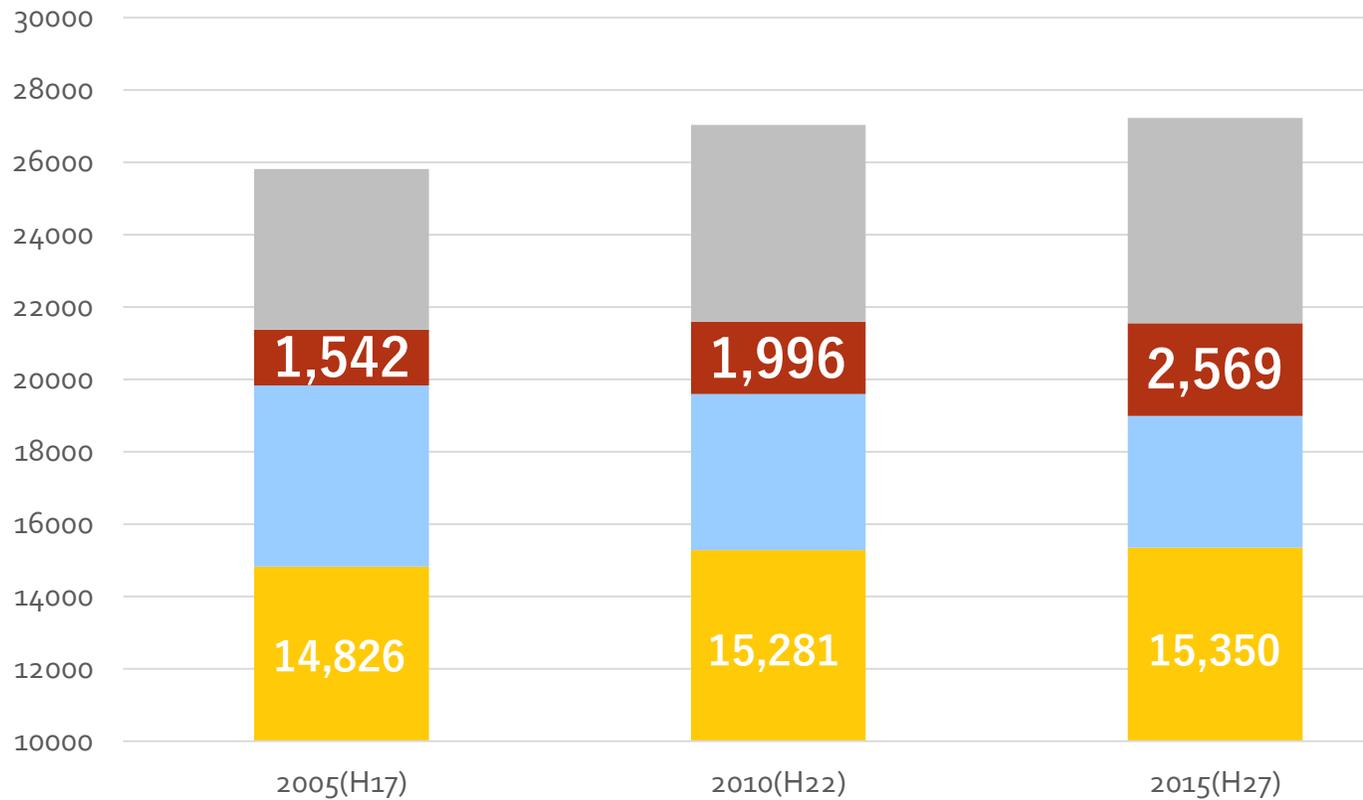
(令和2年10月1日時点・常住人口)

石岡市に住んでいる人の「推移」

(茨城県常住人口調査より)



石岡市の世帯構成の「推移」



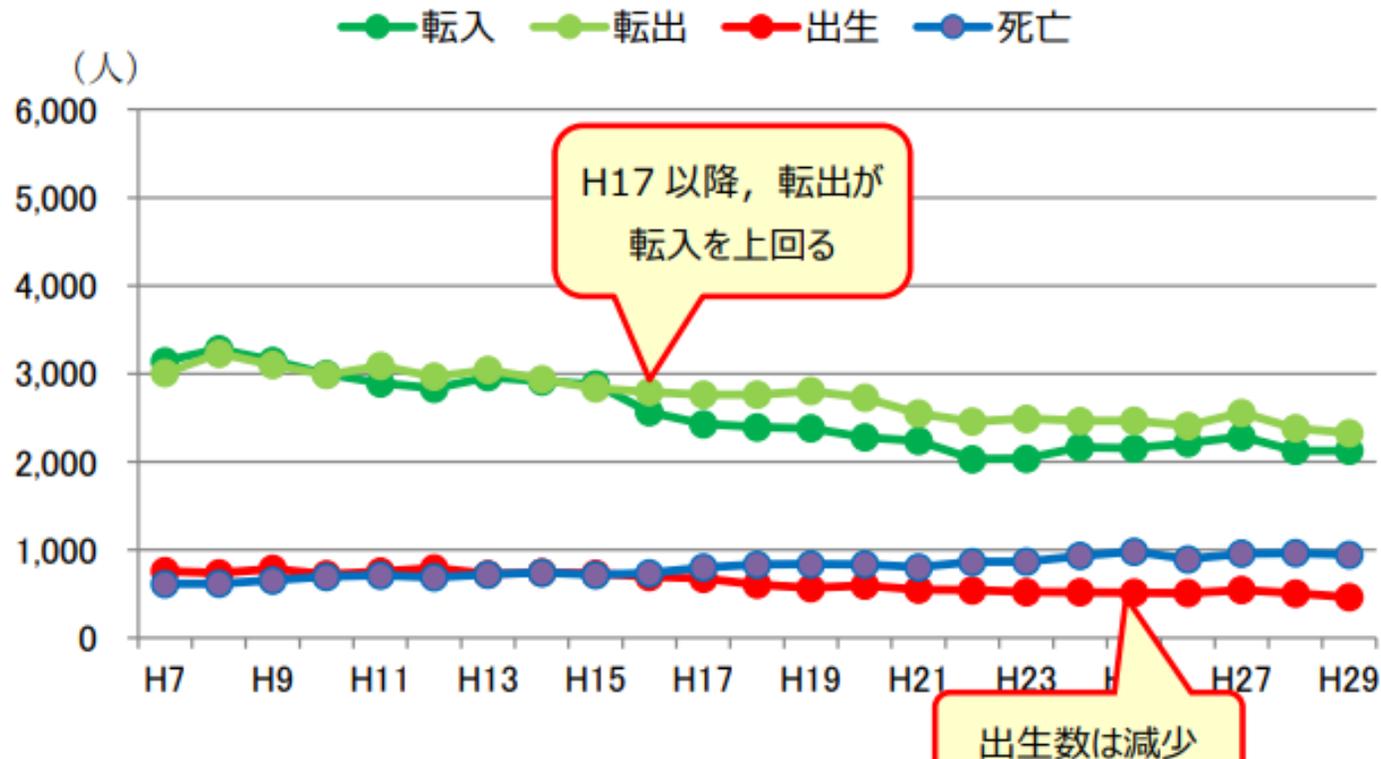
人口は減少しているのに、
世帯数は増加。

原因は、核家族と高齢独居
世帯の増加。

地域コミュニティの仕事が
担えないからと、区や自治
会から抜ける高齢者も…

■ 核家族世帯 ■ 3世代同居世帯 ■ 高齢独居世帯 ■ その他 (国勢調査より)

石岡市の人口減少の理由は、 自然減と社会減



▲石岡市の転入・転出・出生・死亡者数の推移

資料：住民基本台帳人口移動報告

社会減

2005年（平成17年）頃を境に、**転出者数が転入者数を大きく上回る**年が続き、**社会減**の状態が続いています。

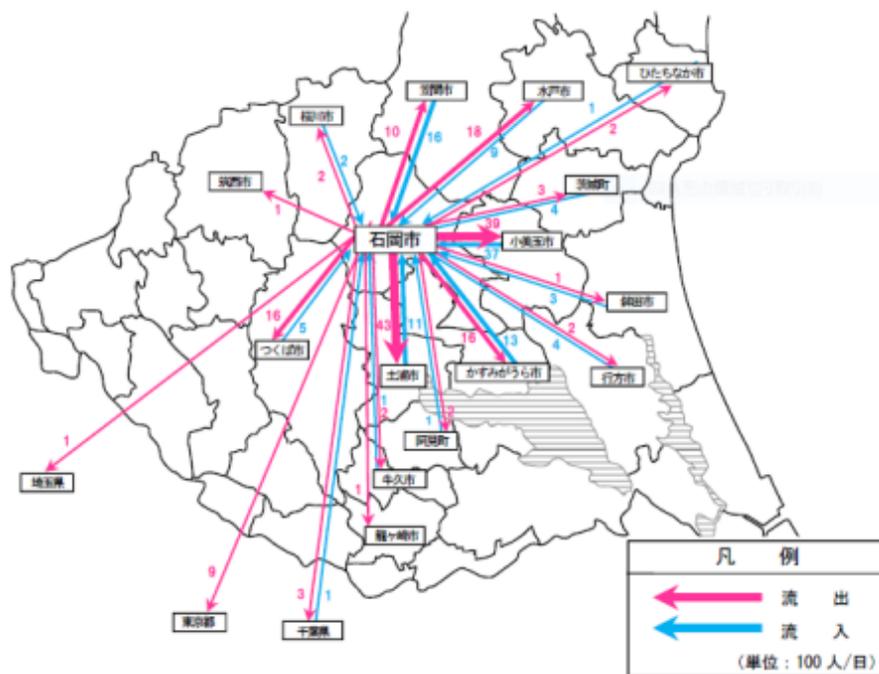
自然減

死亡者数は増加、出生者数は減少で、**自然減も大きくな**っています。

石岡市民は、どこに消えた？

▼石岡市から転出超過となっている
転出超過数上位（平成29年）

転出超過数内訳	
1位	茨城県つくば市 73人 (13.3%)
2位	茨城県土浦市 41人 (7.5%)
3位	茨城県水戸市 30人 (5.5%)
4位	茨城県牛久市 29人 (5.3%)
5位	東京都江戸川区 23人 (4.2%)
5位	栃木県宇都宮市 23人 (4.2%)
7位	茨城県那珂市 22人 (4.0%)
8位	千葉県柏市 20人 (3.6%)
9位	東京都葛飾区 16人 (2.9%)
10位	東京都中野区 14人 (2.6%)



▲ 石岡市の通勤・通学流動 (H27)

資料：国勢調査

つくば・土浦・牛久市などへの転出が多く見られます。

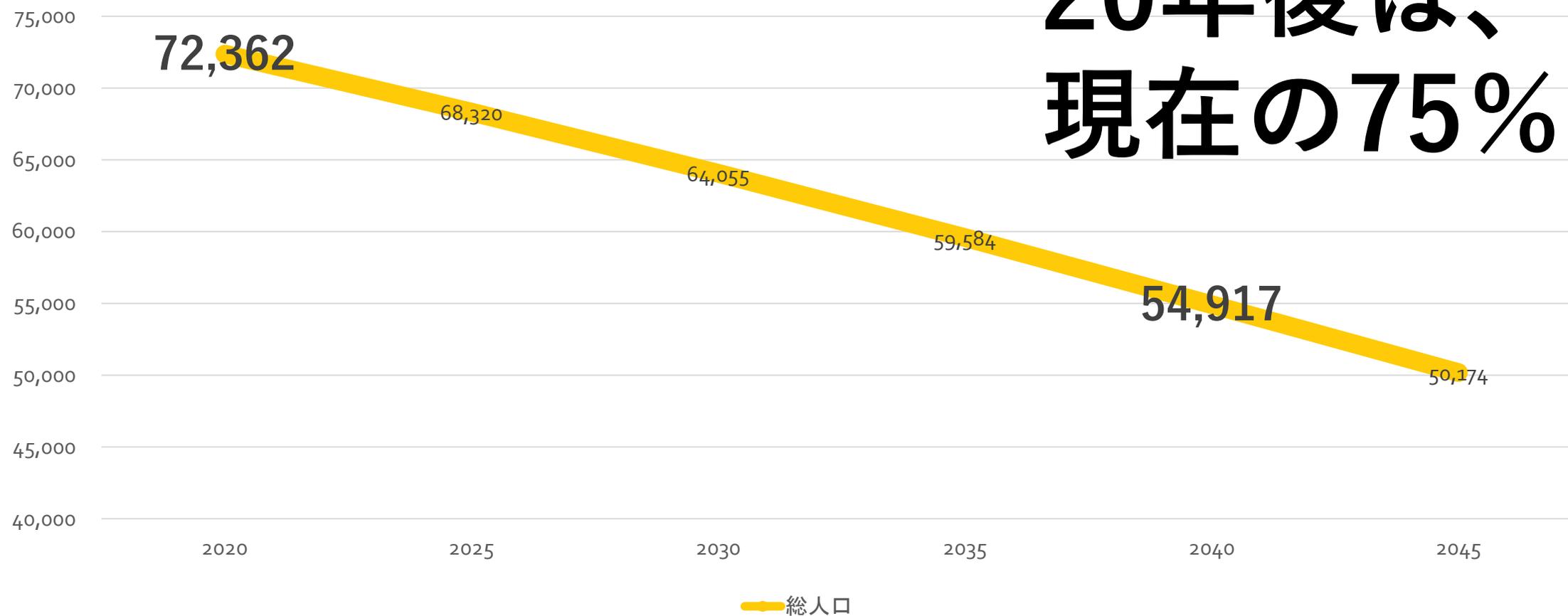
これらのまちは、石岡市民の通勤先と重なっています。

石岡市からの主な転出先は、主要な通勤先となっていることが伺えます。

石岡市の人口の将来推計

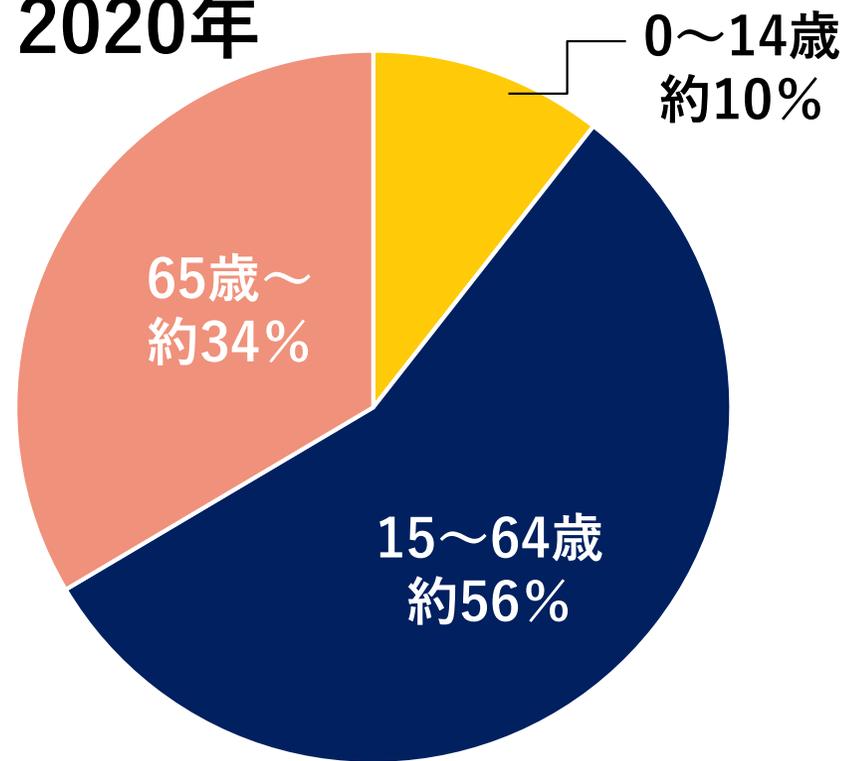
(出典：国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口」)

20年後は、
現在の75%

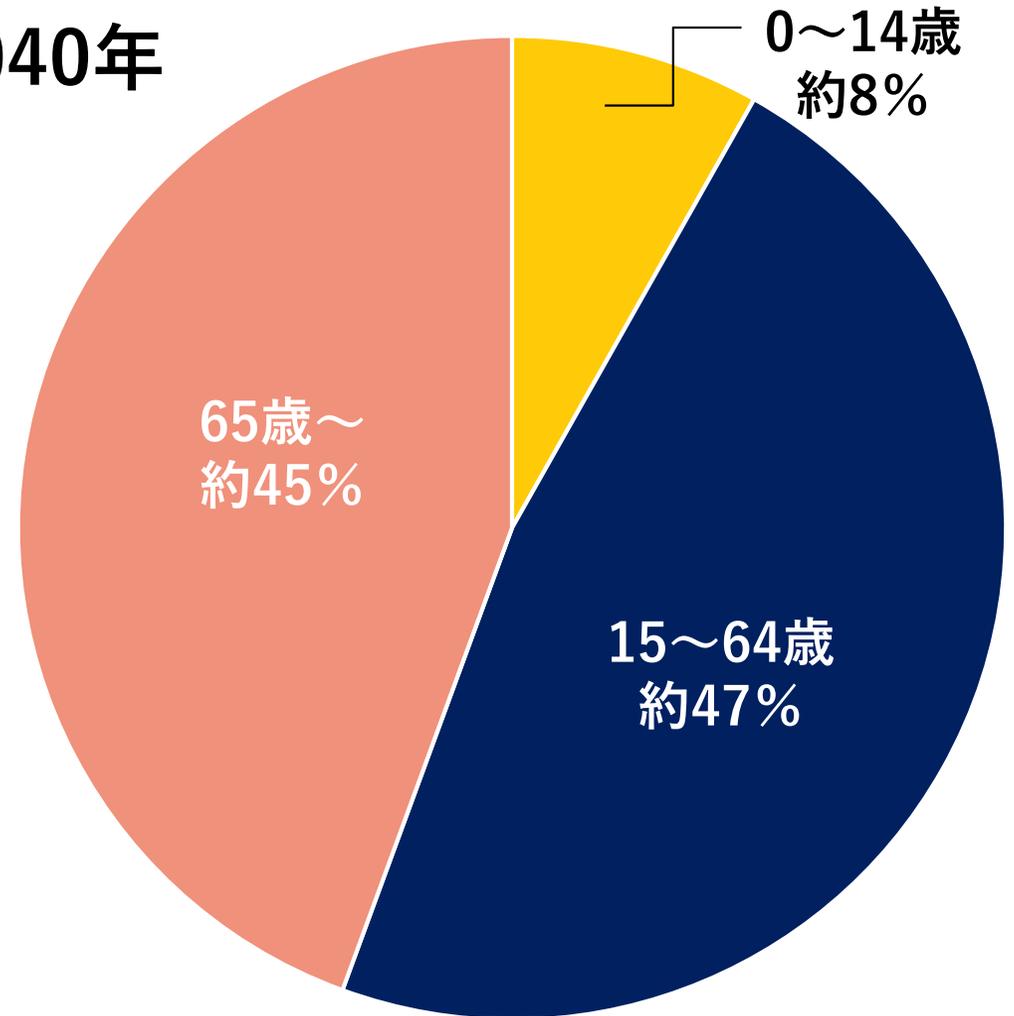


2040年の石岡市の人口構成（推計）

2020年



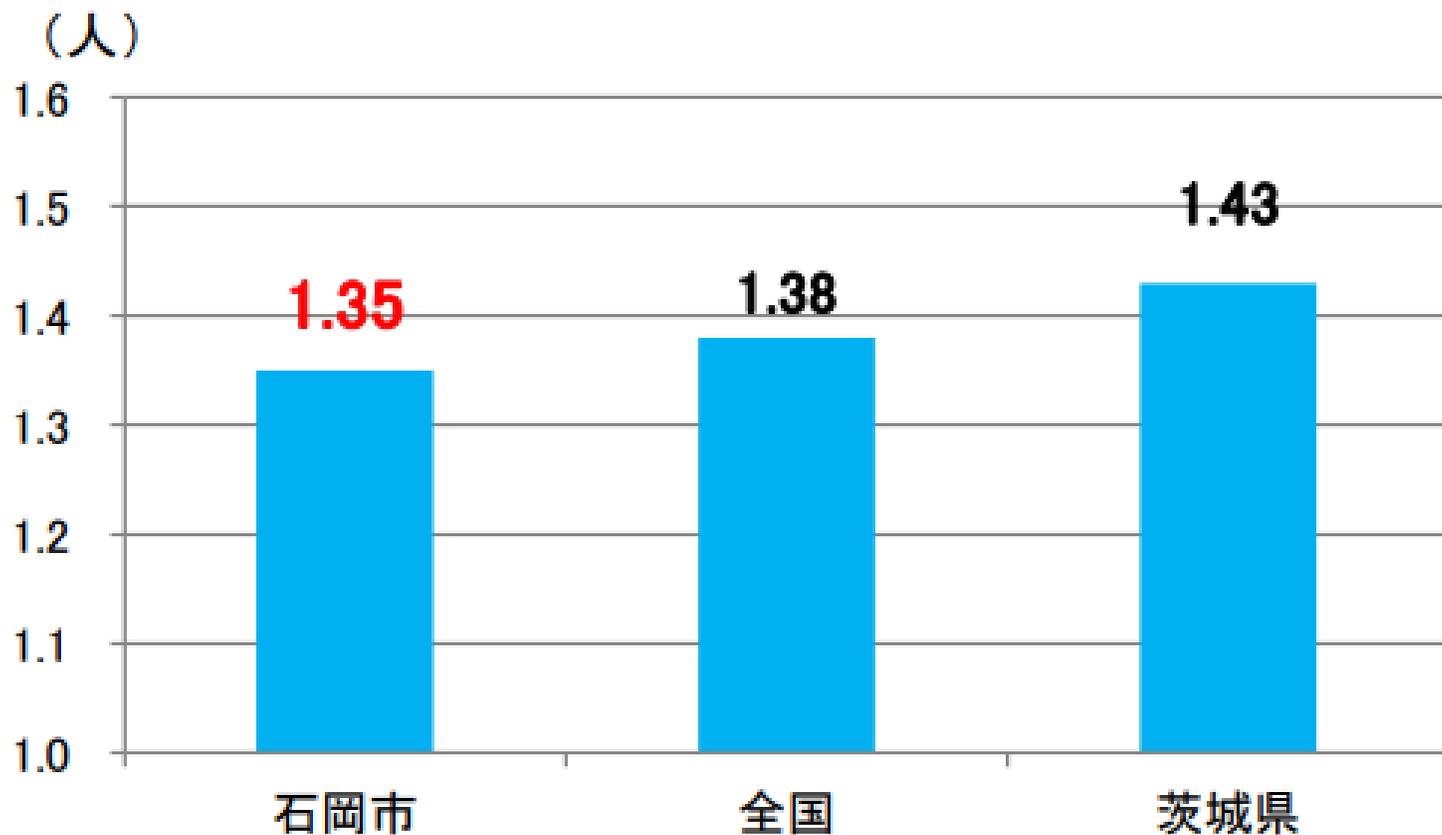
2040年



出典：国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口」

子どもを巡る状況

子どもを巡る状況



石岡市の合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子どもの平均数）は 1.35 人。

全国平均（1.38人）や茨城県平均（1.43人）を下回る。

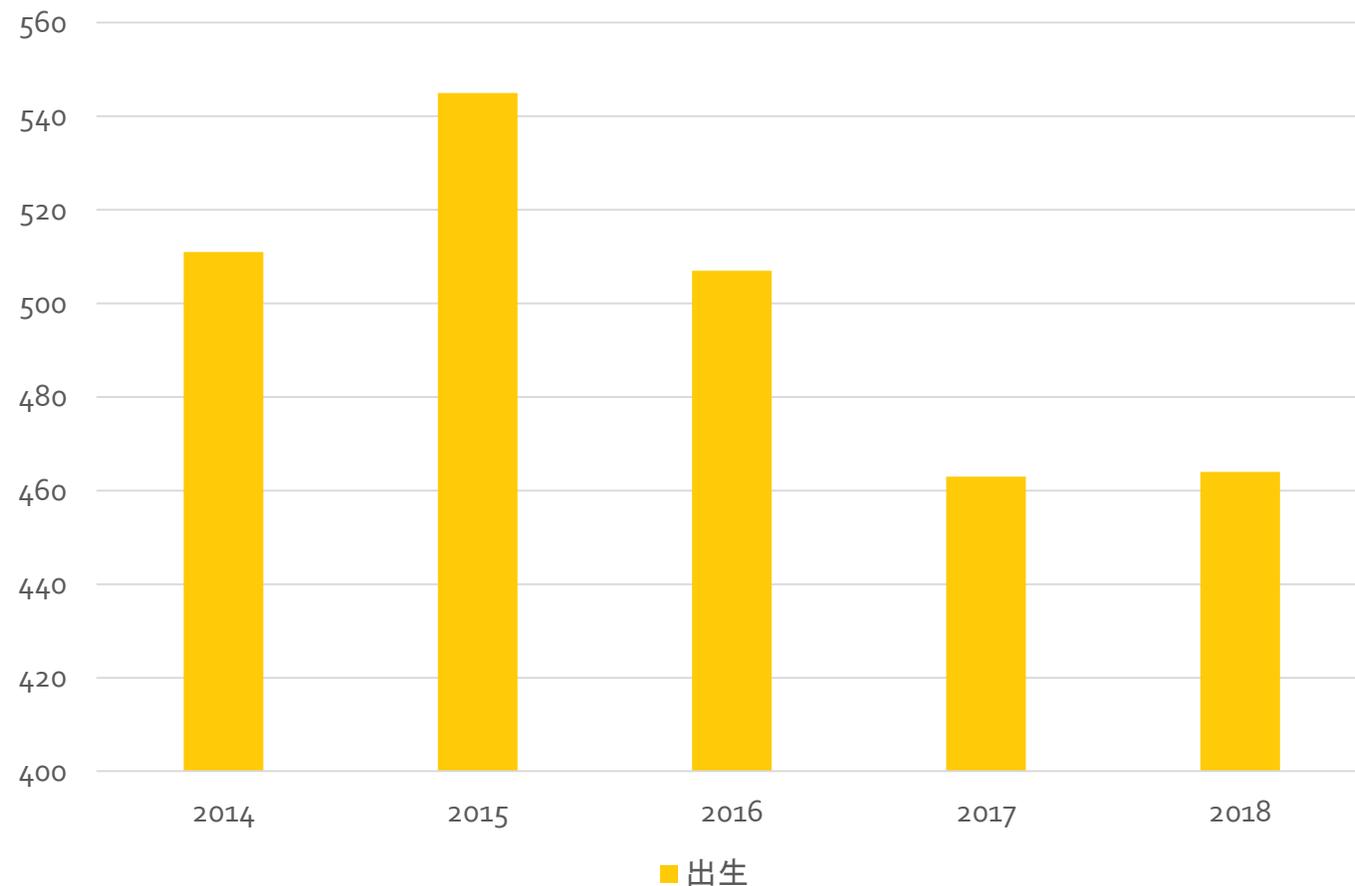
子どもの生みやすい環境作り、安心して出産・子育てができる環境の創出が課題。

▲石岡市と茨城県，全国の合計特殊出生率（H20～H24）

資料：人口動態保健所・市区町村別統計

子どもを巡る状況

石岡市で、1年間に誕生する子どもの数



年	出生数
2014年	511人
2015年	545人
2016年	507人
2017年	463人
2018年	464人

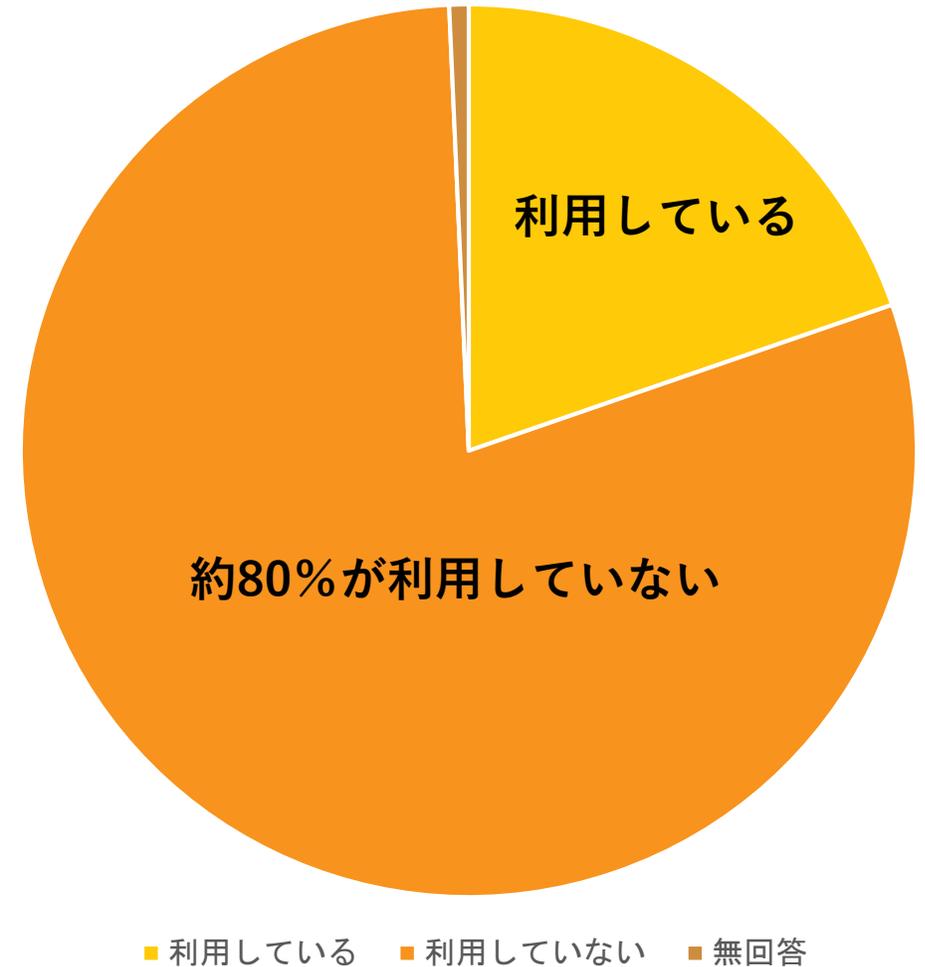
石岡市 第2期子ども・子育て支援プラン策定のためのニーズ調査より

- 平成30年度・平成31年度の2年間で、「第2期石岡市子ども・子育て支援プラン（計画期間：平成32年度～平成36年度）」を策定。調査策定にあたり、子育てに関する生活実態や、要望・意見を把握するためのニーズ調査を実施。

区分	就学前児童調査（保護者）	小学生児童調査（保護者）
サンプル数（票）	1,500	1,000
有効回収数（票）	700	430
有効回収率（％）	46.7％	43.0％
調査方法	郵送配布・回収	
アンケート回収期間	平成30年12月5日～12月25日	

子どもを巡る状況

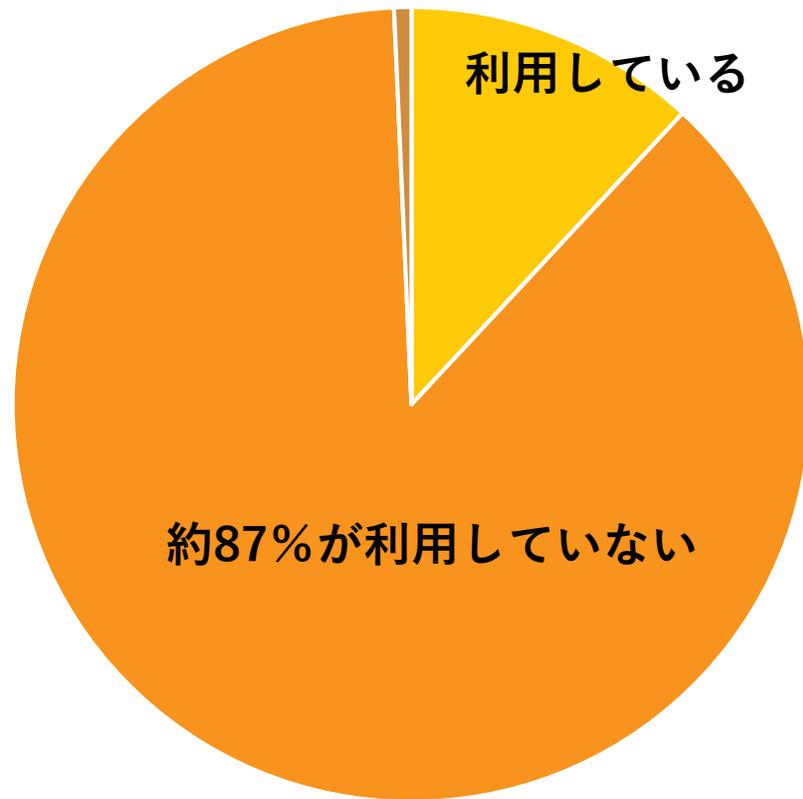
就学前児童をもつ保護者の 地域子育て支援センターの利用状況



石岡市第2期子ども・子育て支援プラン策定のためのニーズ
調査結果報告書（平成31年3月）より

子どもを巡る状況

就学前児童をもつ保護者の 児童館・児童センターの利用状況

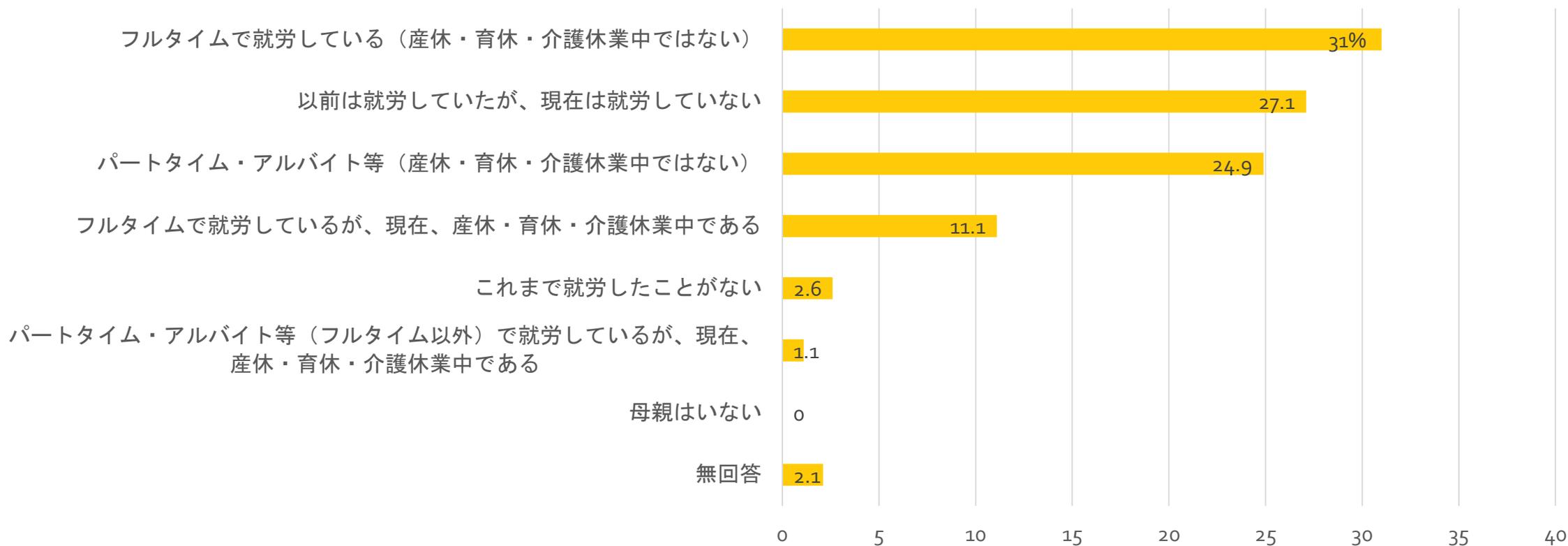


■ 利用している ■ 利用していない ■ 無回答 ■

石岡市第2期子ども・子育て支援プラン策定のためのニーズ
調査結果報告書（平成31年3月）より

子どもを巡る状況

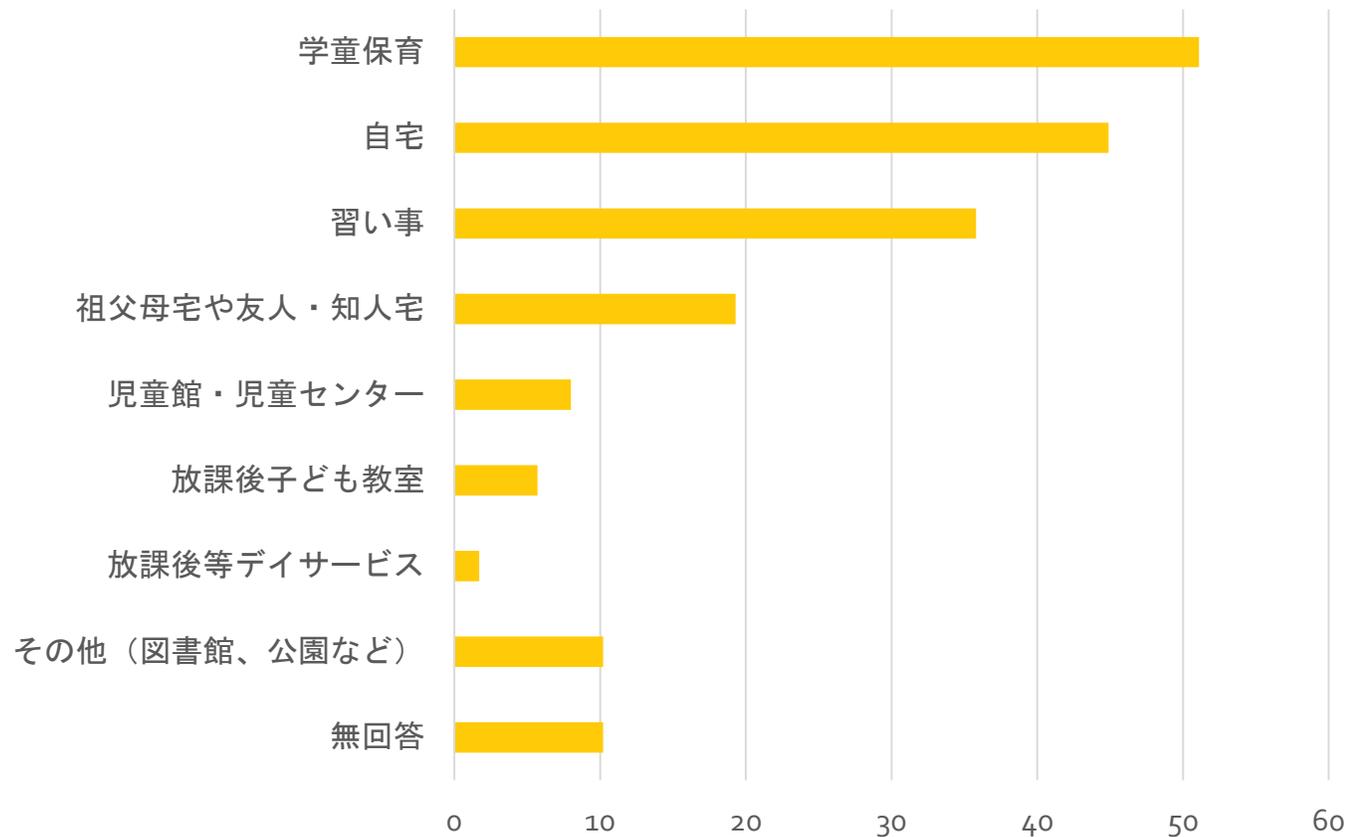
母親の就労状況



石岡市第2期子ども・子育て支援プラン策定のためのニーズ調査結果報告書（平成31年3月）より P25

子どもを巡る状況

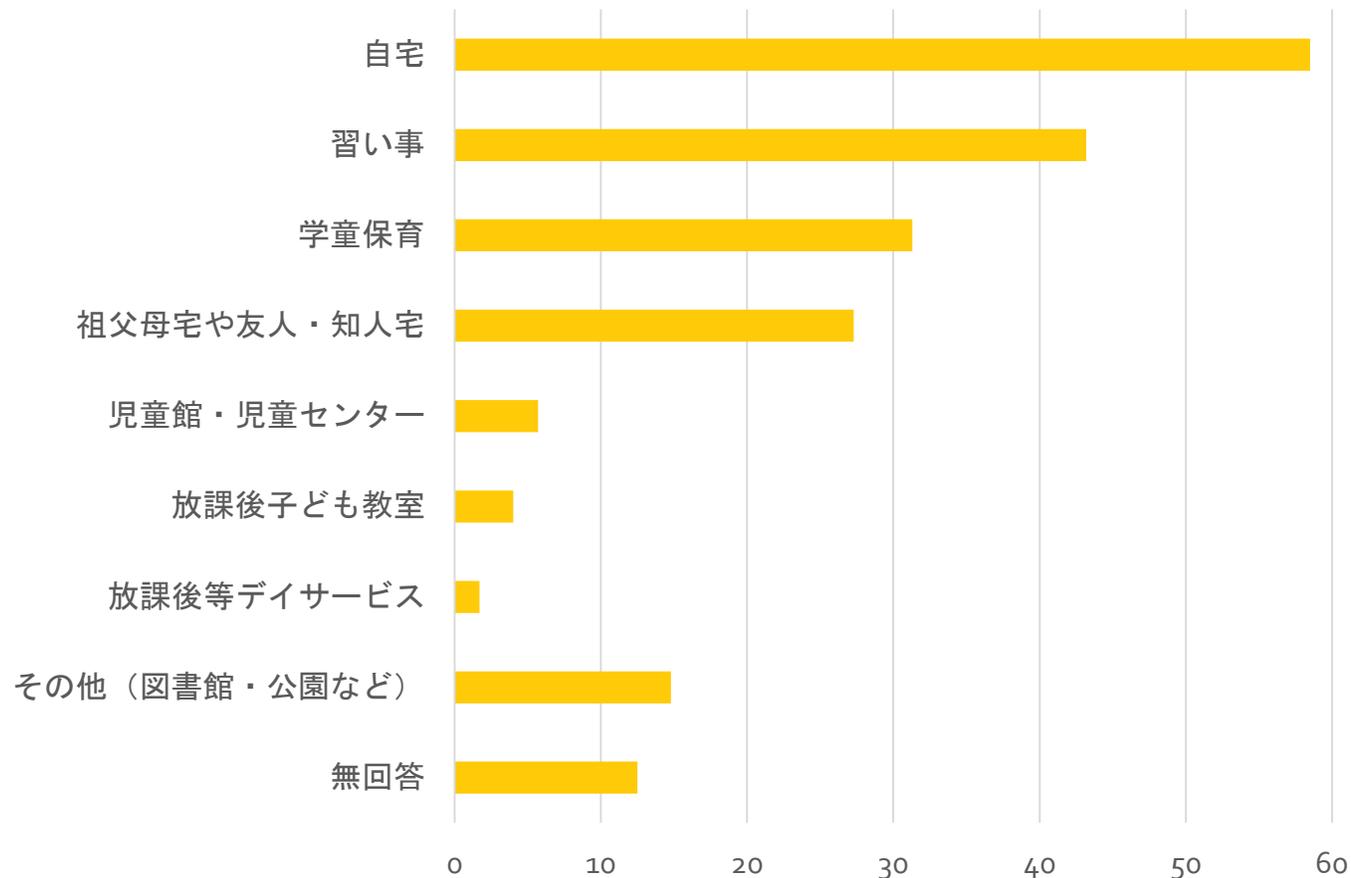
放課後の過ごさせたい場所（小学1～3年生）



石岡市第2期子ども・子育て支援プラン
策定のためのニーズ調査結果報告書
(平成31年3月) より

子どもを巡る状況

放課後の過ごさせたい場所（小学4～6年生）



石岡市第2期子ども・子育て支援プラン
策定のためのニーズ調査結果報告書
(平成31年3月) より

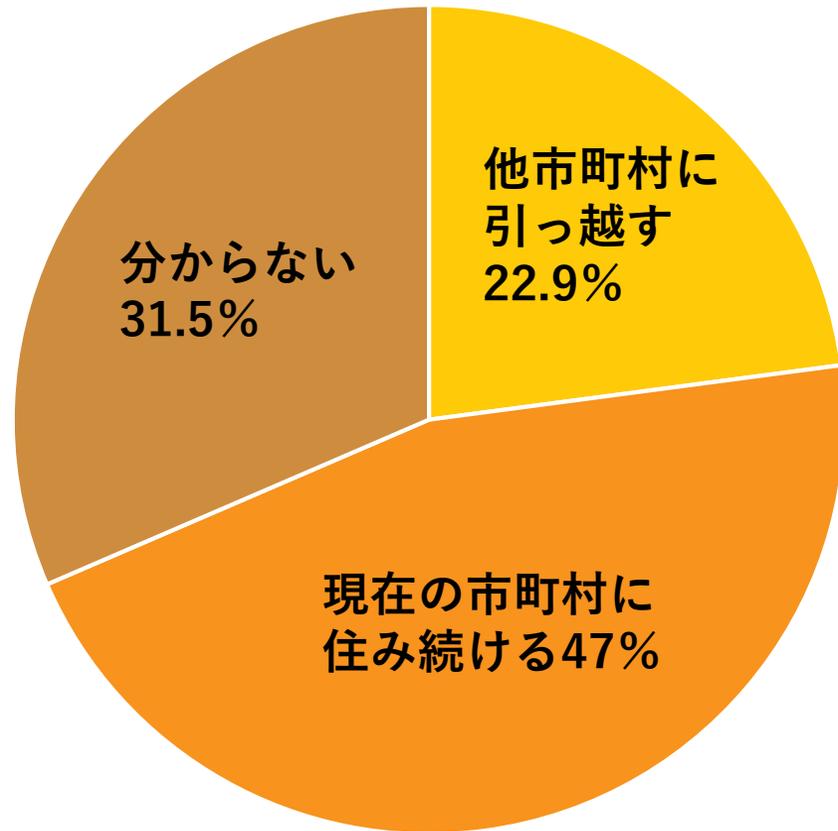
子どもを巡る状況

- 就労している保護者が多い
- 土日に、子連れで利用できる場所が必要という声が多い
- 平日の放課後の過ごし方は、学童保育や自宅で過ごすというケースが多い

若者を巡る状況

若者を巡る状況

市内の高校生の定住・移住意向



■ 他市町村へ引っ越す ■ 現在の市町村に住み続ける ■ 分からない

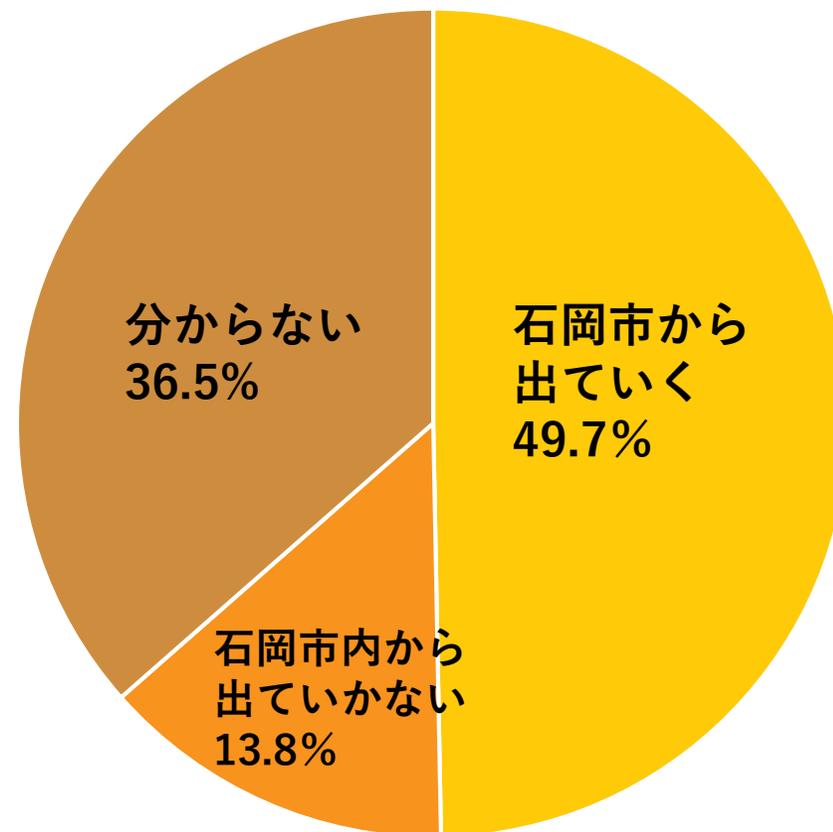
出典：まち・ひと・しごと創生 石岡市人口ビジョン

若者を巡る状況

若者世代（学生）の定住・移住意向

市内に居住する若者世代のうち、大学生・専門学校等の学生に対し、高校生と同様の質問をしたところ、転出したい人が約5割となっています。その理由で最も多いのは、「志望する学校や企業が市外にあるから」で、過半数を占めています。また生活するうえでの便利さや、親からの自立も、約1割あります。転出しない（住み続けたい）理由では、5割以上が「実家から通学・通勤したいから」となっています。

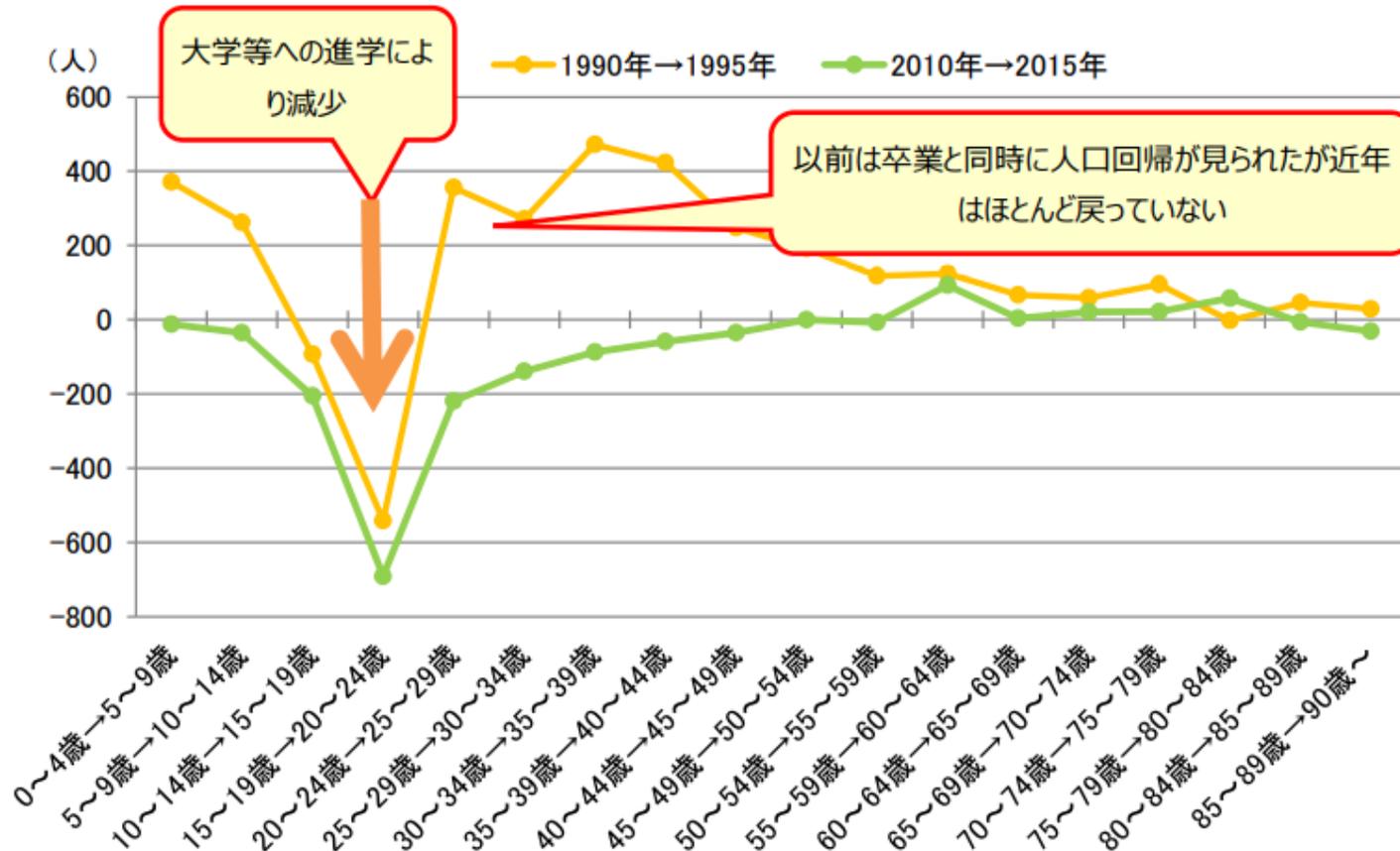
「住み慣れた地域で暮らしたいから」が約3割となっており、地元志向の若者も少なくないことがわかります



出典：まち・ひと・しごと創生 石岡市人口ビジョン

■ 石岡市から出ていく ■ 石岡市から出ていない ■ 分からない

若者を巡る状況



▲石岡市の年齢階層別純移動数の時系列分析

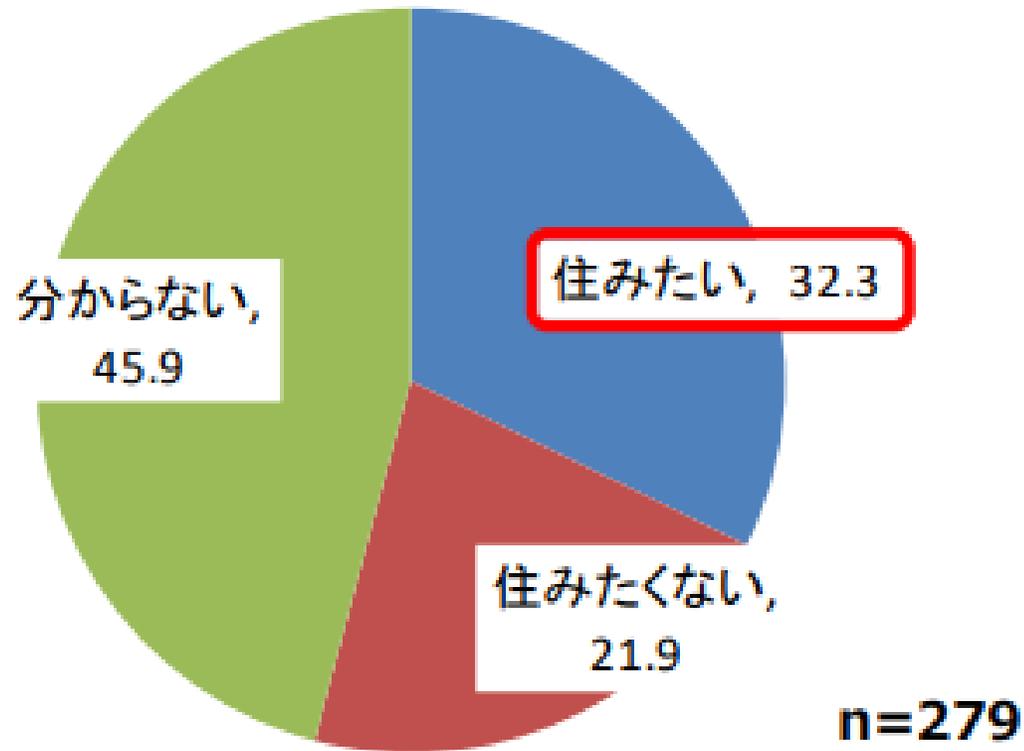
資料：国勢調査，住民基本台帳人口移動報告

● 石岡市の社会増減の状況

- 人口動態のうち、社会増減を年齢階層別にみると大学が市内に立地していないため、以前から大学等への入学する年齢で大きな減少が見られていました。
- しかし、以前（平成2年⇒平成7年）は卒業後に一定の若者が市内に戻ってきていましたが、最近（平成22年⇒平成27年）では、卒業後に戻る人がほとんどいない状況となっています。

出典：まち・ひと・しごと創生 石岡市人口ビジョン

若者を巡る状況



▲若者世代の定住（Uターン）意向

- 若者世代（学生・社会人）の定住（Uターン）意向
- 将来的に石岡市に住みたい（または戻りたい）と回答したのは約3割、住みたくないと回答した方は約2割。
- 住みたい（または戻りたい）と回答した理由で最も多いのは「実家があるから」。また「石岡市に愛着がある」も上位に位置しています。
- 住みたくないと回答した理由では「働きたい会社がないから」が最も多く、「他市町村の方が住みやすい」「通勤・通学が不便」といった理由も上位となっています。

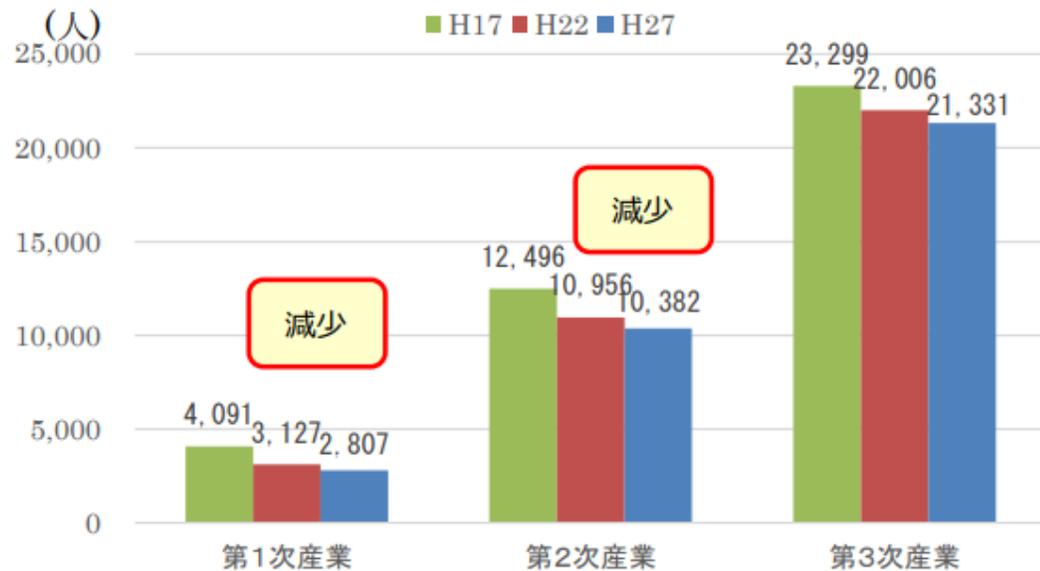
出典：まち・ひと・しごと創生 石岡市人口ビジョン

若者を巡る状況

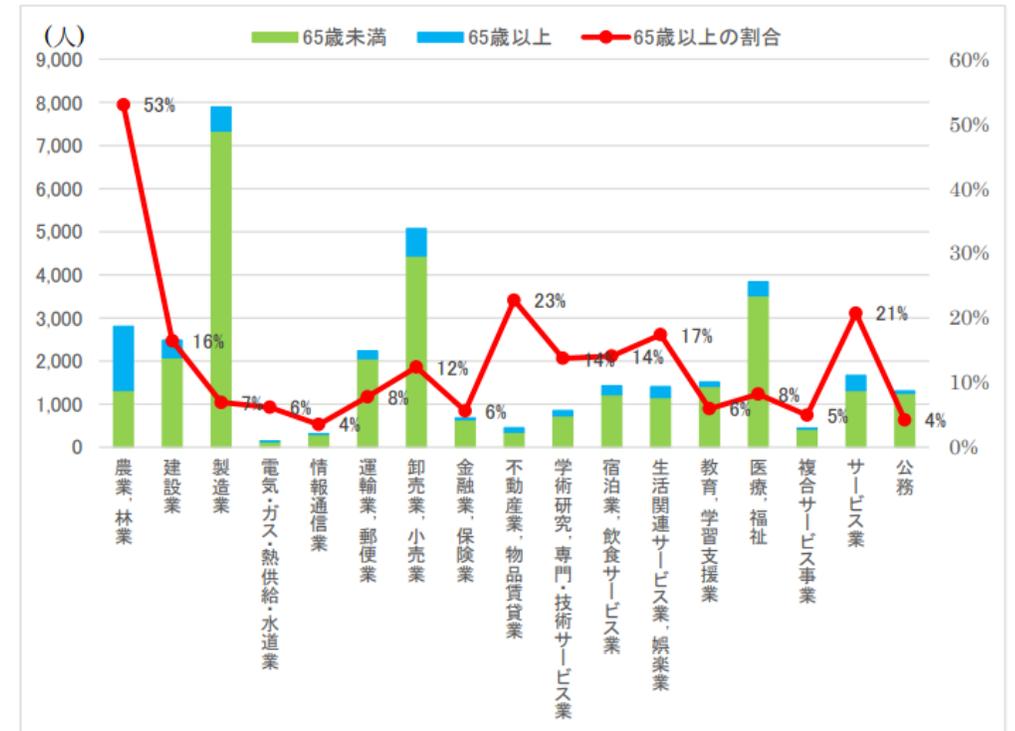
石岡市で働く人の人口は、減少傾向。

特に1次産業（農林水産業）や2次産業（建設・製造業）で減少が顕著で、県内有数の果樹（柿やなし等）生産量を誇る農業は、従業者の高齢化も顕著（全従業者の約53%が65歳以上）。

働く場の確保のほか、農業の後継者確保なども課題。



▲石岡市の産業別従業人口の推移



▲石岡市の産業別従業人口と高齢者比率

若者を巡る状況

- 若者は、地域に愛着をもっていても、「魅力ある」働く場所を求めて、市外に出ていく。
- 若者が、地域に残るためには、「働く」場が必要。

高齢者を巡る状況

石岡ふれあい長寿プラン～第7期～より

- 石岡市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画の策定にあたり、高齢者の生活状況、健康、社会生活等について把握するために「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を実施。

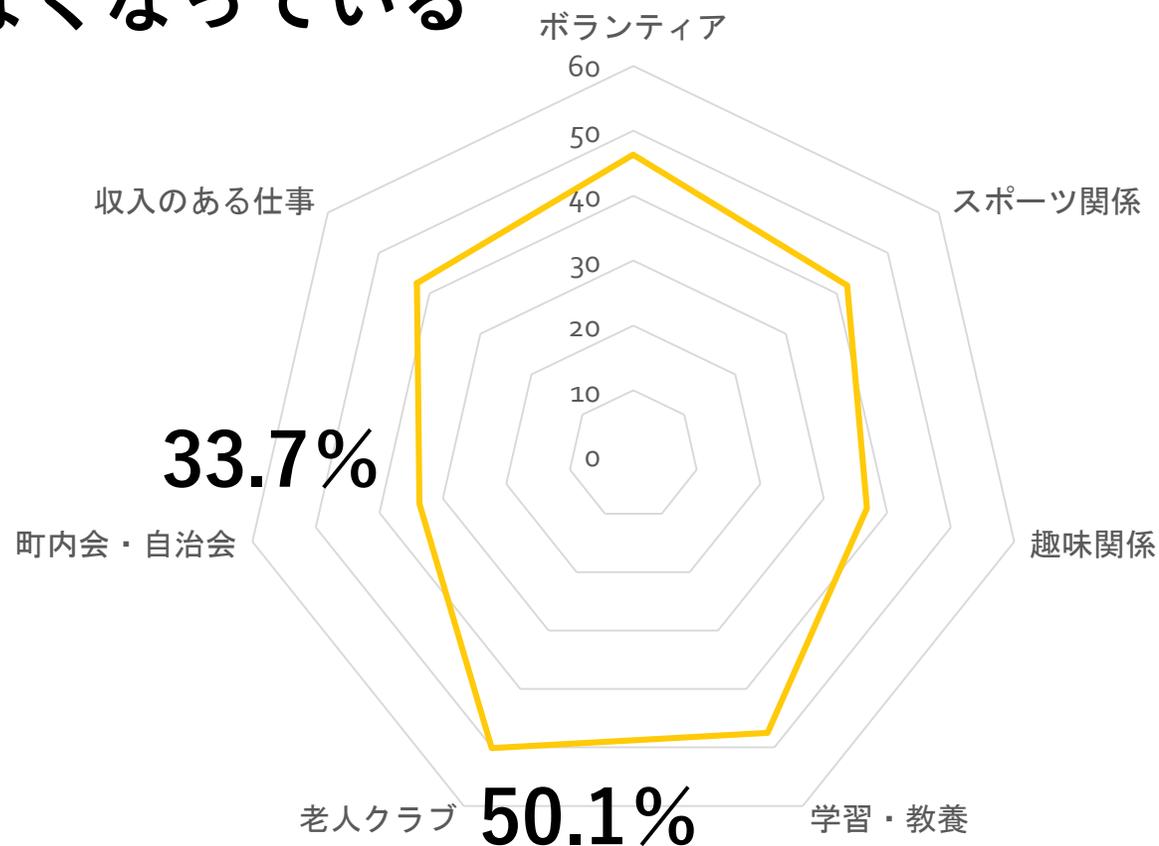
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	配布数
対象	市内在住の高齢者
配布数	3,927
有効回答数	2,315
有効回答率	59%
調査方法	郵送配布・回収
アンケート回収期間	平成29年3月

高齢者を巡る状況

- 高齢者が地域活動に参加できなくなっている

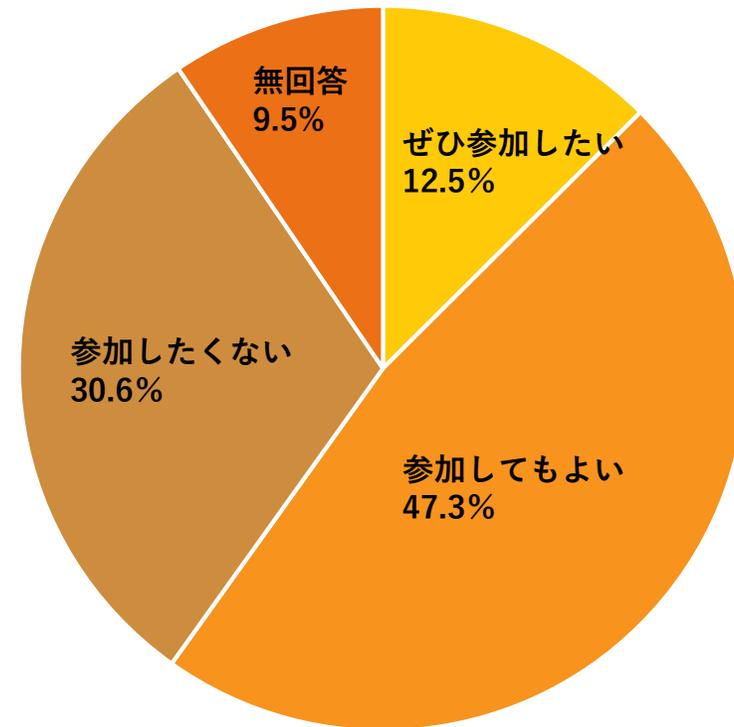
参加していない割合が、
最も高いのが「老人クラブ」
最も低いのが「町内会・自治会」

町内会・自治会は、
多くの高齢者が参加している、
コミュニティ



高齢者を巡る状況

- 地域活動に、参加者として、参加するとしたら…
- 「是非参加したい」が12.5%
- 「参加してもよい」が47.3%
- 「参加したくない」が30.6%



■ 是非参加したい ■ 参加してもよい ■ 参加したくない ■ 無回答

高齢者を巡る状況

- 2040年には、高齢化率は45%
- 70代以降になると、地域に関わる意欲が低下する